

もうすぐ夏季休暇。最近、日本各地やその周辺で地震が頻発している。この休みの間に自分自身の防災対策について確認することにした。

わが家は東京郊外の中規模マンション。東京都から助成金をいただき、エレベーター用防災キャビネット、発電機、投光器、簡易トイレなどの防災備蓄資器材を購入し、「東京とどまるマンション」に登録している。マンションの正面に都からいただいたステッカーを貼っているのだが、大地震が発生した時、本当にマンションにとどまることができるのか、正直言って不安

である。上水は確保できるのか、生活排水は流せるのか、まず心配である。マンホールトイレも購入したが、居住者全員が使用するには数が足りないような気がする。汚物の置き場所も決めたが、すくいっぱいになるに違いない。近隣への臭気も懸念される。

管理組合の総会で理事長とし

## 建設

## 論評

# 夏休みに防災を確認

て、私たちが住むマンションは建築基準法にのっとって設計されている「ので」、能登半島地震と同じような大地震が発生した場合、同じような被害がある」と説明しても、理解してもらったことは容易ではない。大手デベロッパーが分譲したマンションが被災すると考えられない方が多い。一人で住んでおられる後期高齢者も少なくないので、非常時に備えて緊急連絡名簿を作成したが、個人情報関係で居住者全員の情報は把握できていない。

また、大地震発生時には管理会社に連絡がつかなくなるのが想定されるため、日頃メンテナンスでお世話になっている全ての協力会社の連絡先を整理した。大災害が発生した場合は連絡がつかないことや、すぐに復

旧してもらえないことも覚悟し、自分たちで応急対応できるようにしておく必要があるだろうが、準備は全くできていない。飲料水や非常食などを備蓄している住戸は多い。しばらくは餓死しなくて済みそうだが、停電して冷蔵庫は使えなくなるから生鮮食料品は食べられない。常備薬も準備しているが、長期化した場合は健康管理が心配である。

通勤時に大地震が発生した場合は非常に厳しいことになりそうだ。車両の窓は全てはめ殺して開放できない。停電して換気が止まった場合、何時間車内にとどまることができるのだろうか。危険を承知で線路を歩く人もいると思うが、ターミナル駅周辺は大混乱で、線路を出て街に避難することはおそらくでき

ない。

勤務時間中に被災した場合、何日かオフィスに滞在することになるかもしれない。入居するビルも周辺のビルも超高層ビルで、全面がガラスカーテンウォールで覆われている。長周期地震動で右に左に何層も揺れた場合、本当にガラスは落下しないのだろうか。万一、ガラスが落ちれば、道路や広場は大惨事になる。地下街もネットワーク化されていて便利だが地上への出口が少なく、逃げ惑う人で階段近くは人が密集するだろう。

もし地震後に富士山が噴火したら、降灰のため物流は止まって生活必需品が届かず、建築設備は作動しない。大規模停電も起こる。東京一極集中を悔やむだろうが、時すでに遅しか。

(誠)

